

巻 頭 言

病 院 長
渋 谷 均

団塊世代が 75 歳になる 2025 年度を見据えた医療・介護の提供体制をくみ上げる医療制度改革が進んでいます。昨年 6 月に医療介護総合確保推進法が成立し、10 月には病床機能報告制度に基づき、当院も報告書を提出しました。今後、西胆振 2 次医療圏における各病院の役割等を議論する地域医療構想調整会議が設置され、今後のこの地域における医療体制の話し合いが行われます。当院のスタンスは市民のための医療を継続することと思っています。

平成 27 年も半ばとなり、恒例の院内誌が発刊される季節になりました。昨年度の各部所の業績をまとめたもので当院のステイタスを示すものです。

当院の院内誌は良くまとめられており、非常にわかりやすく、見やすくなっていると思います。当院の院内誌は昭和 51 年（1976 年）が初版で、巻頭言として当時の長谷川正治市長（長谷川市長は著名な書道家でもあり、脳梗塞を患った後も利き腕でない、左手で書道を続けられました。当院内誌の表紙の文字は長谷川市長が書いたものです）がお祝いを述べ、「創刊によせて」と題して札幌医大出身の初代院長安斎哲郎先生が文章を書いておられます。当時から雑誌の体裁は変わっておらず最初から良いものを作ろうと意図した編集者の努力が伺われる優れた雑誌であることが解ります。当時は 35 名ほどの医師数でしたが、初版では 14 編の原著が掲載されており、先生方の意気込みが感じられます。昨年も触れましたが、当院の院内誌は査読制度、編集委員のご努力もあり、優れたものに仕上がっています。皆様のご協力によりさらに質の高いものを目指して欲しいと願っております。

話は変わりますが、本年度は昨年からの 2 年目研修医 1 名、本年度 5 名の研修医が当院で臨床実習に励んでおります。研修医を育てる病院は活気にあふれており、指導医にとっても良い刺激となります。また医学生のみならず、各部所にも見学、実習に沢山の学生がきております。今後の医療を支える人達に温かいご声援とご協力をお願い致します。